

江戸東京博物館リニューアルオープン概要発表

東京都江戸東京博物館（愛称：えどはく）は、2026（令和8）年3月31日にリニューアルオープンいたします。江戸東京の歴史と文化を振り返り、未来の都市と生活を考える場として1993年3月に開館した江戸東京博物館は、開館からの約30年間で初めてとなる大規模な改修工事を実施しました。今回の改修により、東京の新しい文化創造の拠点として、来館者の安心・安全確保及び展示環境等の魅力を更に向上させましたので、その概要をお知らせいたします。

リニューアル後も、国内外の誰もが必ず訪れたいような、「東京のアイコン」となる施設を目指してまいります。今後も末長いご愛顧のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

リニューアル概要

■ 施設老朽化への対応・機能改善

- 老朽化した内外装を更新したほか、東西に張り出す大屋根は断熱性・防水性の向上を図る改修を行いました。
- 老朽化した空調機器をはじめとした、設備面の全面的な改修も実施しました。



■ 環境負荷に配慮した施設へ

- 館内の照明をLEDに更新したほか、人感センサーを導入する等、省エネルギー化の推進を図りました。
- 敷地内に太陽光発電設備を設置したほか、電気自動車充電スタンドを来館者用駐車場に設置しました。

■ 利便性・バリアフリー機能等の向上

- どなたにも開かれた施設となるよう、バリアフリー機能の向上やユニバーサルデザインの見直し等を実施しました。
- 施設外部に歩廊を増設し、都営大江戸線両国駅からの来館者動線を改善。また、メインエントランスまでの動線上には光天井を採用し、安全でわかりやすいアプローチとしました。
- 7階の図書室はスペースを拡大したほか、開架棚も増設し、手に取れる本の冊数を増やしました。



※リニューアルの詳細は別紙をご覧ください。

なお、リニューアルオープン当日は記念イベント等を開催する予定です。詳細については別途お知らせします。

本件は、「2050東京戦略」を推進する取組です。
戦略15 文化・エンタメ「江戸から続く歴史・文化の発信」



2050東京戦略
～東京 もっとよくなる～

【お問合せ先】

生活文化局文化振興部文化事業課 電話：03-5000-7237

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館 管理課 電話：03-3626-9974（代表）

■ 設備の経年劣化等への対応

設備機器の全面更新

- 空調機器をはじめとした、老朽化した設備機器の全面的な更新を行いました。

内外装・防水等の老朽箇所改修

- 特別展示室や図書室など、館の内外装（床・壁・天井等）を更新しました。東西に張り出す大屋根は、老朽化した部材を撤去し、断熱性・防水性の向上を図る改修を行いました。



■ 利便性・バリアフリー機能の向上

館入口への動線整備

- 清澄通り側（都営地下鉄大江戸線両国駅側）から北エントランスへの雨天時の配慮として、歩廊を増設しました。増設した歩廊には、太陽光により表面の汚れを分解する効果のある素材を採用しています。
- また、JR両国駅西口側（国技館側）からメインエントランスまでの動線上には光天井を採用し、安全でわかりやすいアプローチとしました。

バリアフリースイールの機能強化

- 1階チケット売りば横にバリアフリースイールを2か所新設しました。さらに、オストメイト設備を本館内すべてのバリアフリースイールに整備しています。

ユニバーサルデザインの導入

- 館内サインについては、館のロゴタイプが発信するメッセージの一貫性を保つとともに、誰もが読みやすいサインとなるよう「ユニバーサルデザインフォント」を採用しました。

エントランスホールの拡大

- エントランスホールの既存壁を撤去してスペースを広げ、明るく開放感のある空間へ改修しました。チケット売りばの壁面・カウンターには多摩産材を採用し、壁面の一部は伝統的な左官の技術で仕上げました。



■ 環境負荷に配慮した施設へ

太陽光発電設備やLED照明の整備

- 敷地内に太陽光発電設備を設置し、再生エネルギーの活用推進に努めています。また、館内の照明もLEDに更新したほか、人感センサーを導入する等、省エネルギー化も行いました。

既存蓄熱槽を活用した熱回収ヒートポンプチャラーの導入

- 博物館では収蔵品を適切に保管するため、年間を通じて冷房と暖房両方の空調が必要となります。改修により、冷房用のエネルギーを作り出す際の排熱で暖房用のエネルギーも作り出す機器（熱回収ヒートポンプチャラー）を導入し、さらに作り出した熱を既存蓄熱槽に貯め、最大限空調設備に利用することで、更なる省エネルギー化を図りました。

電気自動車充電スタンドの新設

- ZEV（ゼロエミッションビークル）の普及を後押しするために、電気自動車充電スタンドを来館者用駐車場に10台（急速充電機：2台、普通充電器：8台）設置します。

■ 学びやすさ・使いやすさの向上

図書室の機能充実

- 7階の図書室はスペースを拡大したほか、開架棚も増設し、手に取れる本の冊数を増やしました。
- また、東京空襲や戦争を体験した方々の戦争体験の記憶を語った映像（証言映像）も、図書室内映像ライブラリーで常時視聴することができるようになりました。



館内アクセシビリティの強化

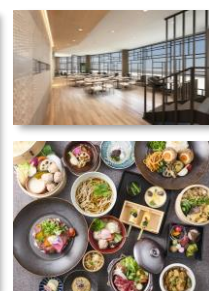
- 館内の案内窓口にて、筆談具や文字支援アプリなどのコミュニケーション支援ツールを設置し、1階総合案内には手話ができるスタッフを配置します。
- また、常設展示室には、触知案内板や触察模型を設置しています。

■ 附帯施設のリニューアル

「和ダイニングレストラン こよみ」



- 江戸前と言えば「そば、天ぷら、寿司」、銀座と言えば日本発祥の「洋食」、東京から広まった料理がたくさんあります。そんななじみの深いお料理を和モダンな空間で“粋”に提供いたします。ゆったりとした空間で季節感あふれるお食事をお楽しみください。



「ippuku cafe」



- かわいらしい和甘味や抹茶デザートなど、ちょっと一息つきたいときにぴったりの手軽なカフェです。観覧後のひと時に、ソフトドリンクやスイーツをお楽しみいただけます。



「ミュージアムショップ DIG TOKYO」



- 展覧会図録や刊行物をはじめ、江戸東京博物館のコレクションを使ったオリジナルグッズなどを販売します。ご鑑賞の前後に、ぜひお立ち寄りください。

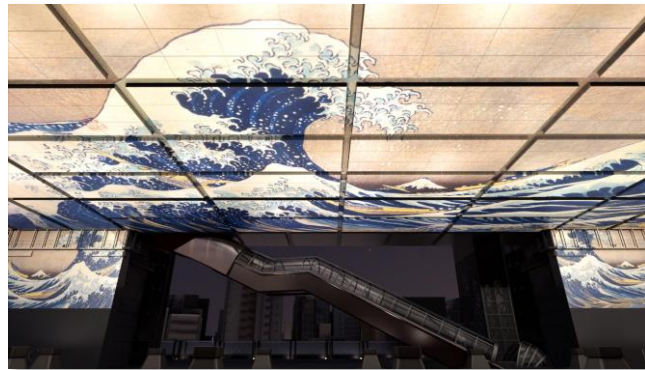
■ 収蔵品を活用した空間演出と展示のアップデート

重松象平氏の監修による空間演出

- 「東京のアイコン」となる博物館を目指し、日本人建築家・重松象平氏がパートナーを務める世界的建築設計事務所OMA（Office for Metropolitan Architecture）とともに、館内外の空間デザインを行いました。
- 現代から江戸への没入感を高めるため、1階西側からのアプローチに「鳥居」をモチーフとしたオブジェを設置しました。また、3階江戸東京ひろばでは、収蔵品を活用した大型映像の投影を行うほか、常設展示室内では現代と江戸の空を再現する映像を投影するなど、来館時の鑑賞体験を高める演出を施しました。



©OMA



大型模型等の新設・仕様のアップデート

- 常設展示室内に設置している大型模型「朝野新聞社」を、史実に基づき「服部時計店」へと改修しました。また、来館者から寄せられた声に応え、芝居小屋「中村座」を内部に入ることができるような仕様へと改善しました。
- 江戸の暮らしや文化を肌で感じていただけるよう、江戸の庶民に身近であった、街中での「朝顔売り」や「天麩羅」の屋台などを新設し、江戸の街並みを展示室内に再現しました。



■ 常設展観覧料の改定

館内サービスの向上等に寄与するため、下記のとおり常設展観覧料を改定します。

- 一般：600円→800円
- 65歳以上：300円→400円
- 大学生・専門学校生：480円（変更なし）
- 高校生：300円（変更なし）
- 中学生以下：無料

※ なお、各種割引・減免の詳細についてはお問い合わせください。

【参考：江戸東京博物館概要】

- 名称：東京都江戸東京博物館
- 住所：東京都墨田区横網一丁目4番1号
- 開館：平成5（1993）年3月28日
- 構造：鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造
- 階数：地下2階、地上7階建て
- 階高：62.16m
- 原設計者：菊竹清訓建築設計事務所